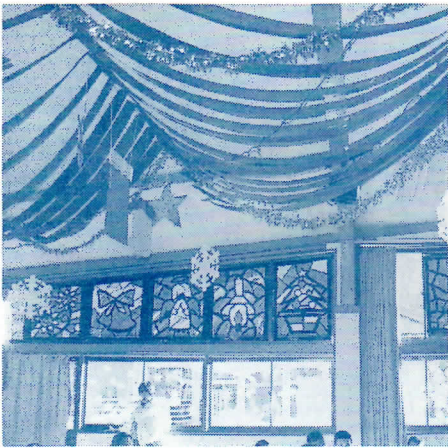




お ち ほ

第21号 平成7年2月19日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



クリスマスはどーも！

構想・準備・練習に二百日を費した、落穂寮始めて以来のスペクタクル・ロマン『サンタクロースを探して』が、去る12月22日に上演されました。新人を中心としたこの劇では、アニメのヒーロー『アンパンマン』と『セーラームーン』も登場し、場内は笑いと感動の渦の中、とても楽しいひとときをすごすことができました。

今年度のクリスマスは更にすこく、歌のおねえさんとおにいさんが来られ、寮生と共にうたい、加えてゲストを招いてのバンド演奏も披露して下さい、いつになく本格的な雰囲気、いつも騒がしい寮生さん達も、その大人の雰囲気にしぼしぼ浸っていたようです。

今年度は始まって早々から色々な事があり、どうなる事かと思っていました、無事、サンタさんも来てくれました(よかった。)

どうか、今年一年は、昨年よりもちょっといい年でありませうに、と願わずにはいられません。

新春の課題

寒 山 下 陽 一

新年おめでとうございます。年頭に出たり、皆さんのご多幸をお祈り申し上げます。

今年は落穂寮が発足して四十五周年を迎えますが、寮をとりまく状況が変わりかたにはおびただしい福福があります。今日の新しい福福の流れのなかで、障害のある私たちの支えとなる落穂寮にするためにはどの方向に指針を定めるべきか考えなければならぬ時期が来るとしています。

私達落穂寮の職員も議論を尽くすことになりまして、寮をとりまく皆さんのご意見を汲みつつ歩み出したいと思っておりますので、一層のご支援とご助言をお願い申し上げます。

さて、以前から寮生達の平均年齢がすでに児童施設のそれとなく、施設の建物も老朽化し、成人施設への転換と全面改革のお願いの旨

を各方面に働きかけ、平成9年に開所するべく願っておりますが、国は緊縮財政が余儀なくされている上で、新しい事業が先送りにならざるを得ないのが実情のようです。

しかし、私達は手をこまねいているわけにはいきません。私達の切実な願いと意思をなんとか訴えたいわけですが、それを次の二点から論議を深め、皆さんの協力を仰ぎたいと思っております。

一 新しく福祉の時代の流れに沿った施設を

落穂寮は今から二十四年前大津市から現在地石部町に移転しました。同時に入所の定員八〇人に定められたのですが、今日までの二十数年間に入所希望の親子が変わってしまっています。福祉の基本的な流の方向は今後当然変わるべきがないと思われませんが、家庭、家族と共の生活は、障害をもつひと

もどうでないひとと、同じ目標を生活できていることです。その目標を思い生かすには、家庭に十分に介護やお世話ができなかった場合の施設生活や余儀なくして、ひとたちの痛をどのよう

新年賀謹



のなるでしよう。福祉の流れが大きく変わっていくことにより児童施設のありかたも一動く一でしよう。いまだ形が定まらないなかで新しい形

を促進するか、緊急時の施設の利用や、生活するうえに必要な力を獲得するに必要なのは、適当な時期に適切な指導を受けておくこと、中期的な集団生活

の体験も必要でしょう。これらは、新しい施設の方で開かれていく、これらの求めに応じよう、開拓されるべき施設はたす役割はたくさんあるのではないかと感じています。

二 施設建設に必要な自己資金を具体的なものに

新しく建て替えるのに多額の自己資金が必要で、これらは寄付金と長期返済の借金で賄われることになっていでしょう。二十年以上の長い返済期間になると思われませんが、これなどは極めて厳密な返済計画が求められます。

昔から一年の計は元旦にありと申しますが、新しい年を迎えて親の会の役員初め会員の皆さん様に落穂寮の成人施設の建設と言う大目標に向ってなお、一層の御協力と御援助をお願い申し上げます。

さて、以前から寮生達の平均年齢がすでに児童施設のそれとなく、施設の建物も老朽化し、成人施設への転換と全面改革のお願いの旨

を各方面に働きかけ、平成9年に開所するべく願っておりますが、国は緊縮財政が余儀なくされている上で、新しい事業が先送りにならざるを得ないのが実情のようです。

しかし、私達は手をこまねいているわけにはいきません。私達の切実な願いと意思をなんとか訴えたいわけですが、それを次の二点から論議を深め、皆さんの協力を仰ぎたいと思っております。

一 新しく福祉の時代の流れに沿った施設を

落穂寮は今から二十四年前大津市から現在地石部町に移転しました。同時に入所の定員八〇人に定められたのですが、今日までの二十数年間に入所希望の親子が変わってしまっています。福祉の基本的な流の方向は今後当然変わるべきがないと思われませんが、家庭、家族と共の生活は、障害をもつひと

一年の計は元旦にあり

落穂寮親の会会長 小林 義雄

以上述べましたことの一つひとつが有効な説得力になるような内容にして協力を求めていくつもりです。洞察を加えなければならぬ要素が多々あると思っておりますが、多くのひとの協力が得られれば得られるほど強い説得力もある

新年明けましておめでとうございます。落穂寮親の会の家族の皆さんにはお健やかに新春をお迎えに成り心からお慶び申し上げます。

平素は親の会の活動に対してご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて昨年は我が国経済状況は、長びく景気の低迷から、新聞紙上等回復に向けて居ると、新開紙上報道されておりますが、現実はまだ、不透明さはぬぐい切れないものがある様に思われ

総寮在寮生の為に、一昨年親の会では、こうしたなか高齡化する落穂寮の成人施設へ移すこと、この補助金を受ける為に、落穂寮で最低一、二億の自己資金を確保しなくてはなりません。又借入すると致しますその返済方法をきっちりとした書類等

の様に色々落穂寮の将来を考えると見ますと、今年、と言います。今年、と言います。今年、と言います。今年、と言います。

落穂寮の



心と心の結びつき

佐藤三博

現在、落穂寮の寮生の半数以上が成人施設をこえている。ここ数年の成人施設の建設によって、数多くの寮生は退寮し、成人施設へ移っていったが、まだまだ、多数の寮生が、成人施設に移れないまま残っている。そして、一年ごとにその人数は増えていくことになる。成人施設の建設が、入所対象者の増加に追いついていないのが現状である。

施設の中では、学籍児の生活様と年長者の生活様とで、対応や活動が違っている為、寮として一つにまとめることが難しくなっている。又、児童施設であるが故に、年長者は、作業内容、生活時間等等、様々な制約を受けるところにあって、このような状況を受けとらなければならないのである。

落穂寮が成人施設へを打開すべく、現在まで、重厚な対象にした、更生施設とすることを決定した。又、新しい生活棟の設計案を、個人の空間を大切にすることや、自

由に過ごせるスペースを設けること、などを盛り込んで決定している。しかし、建物とのハードの面は決定しているものの、療育のあり方や具体的な生活の内容など

Dream Come True 成人施設化を考える

職員の成人化を

菅原龍弥

落穂寮の成人化の話が持ち上がったからかなり経つ。「そろそろ本腰を入れて成人施設化について考えていくのではないか」ということや、「だ、さて何から考えていいのか、どの仕事を通して感じ

ていることからその糸口を探ってみたい。

既に半数以上の成人に達した寮生を抱える落穂寮は未だもって児童施設である。ずいぶん以前より成人の暮らしというものを考え

ソフトの面は、まだ、職員の中ではっきりしては、ないというのが実際である。定期的な討議の機会を持たなかったから、職員の間で、原因は考えられて、基本的な部分が話し合われていなかったのは事実である。その為には、具体的なイメージやビジョンが持ちこたわってしまっていたように思われる。

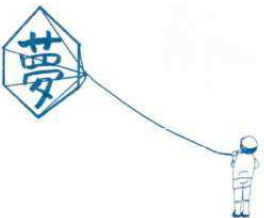
残念ながら、落穂寮の思春転換は、予定より遅くなるようであるが、予足思考と、この間に基本的な施設のあり方について、充分に討議できると考えていきたい。

新たな挑戦

太田正則

このように話は進められていたのが現実のそれとは遠く離れていたのである。自分自身現場の職員としてそのことについてはかなりの混乱があるように思える。寮には年輪的に自分と同世代の寮生もいるし、またかなり年少の寮生もいる。それらが混在した「寮生生活」なのである。私自身の反省として、自分たちは生活指導であるとか、職といった観点から彼らを捉えることは大変得意とするけれども、彼らはその年齢の個人として認めようと思える。彼らはいつまでも子供扱いしてしまっている。これは児童施設という環境から来る仕方のないものなのだろうか。また彼らのもつ理解や弱さといったものを本当に理解して接しているのだろうか。最近の自閉症に対する知見などを講演などで聴くと、反省させられることが多い。彼ら自閉症者のもつ(認知の障害から生まれ来る)その彼らの常識と、私たちの常識とは違うということ。そして私たちが彼らに対する真の理解なので彼らに一方的に接してはならないかという点と、自分たちの目標や理想も、彼らも持っているのだからやり方で彼らを推し

落穂寮成人施設化の話が机上に出さずに三年が経つ。あてもない、ころでもないと論議しながらも因面を描き、今年度には着工するはずである。しかし今、成人化の話は棚上げの状態になってしまっている。何故このような事になってしまっているのか。私自身、成人化を考えた時、その理由が落穂寮が今の多様化したニーズに対応する力量を持たず、しかしその存続を考えるとき、成人化という方法がないと簡単に解決してくれそうない気がしていたのではないかと思う。つまり、成人化問題が自分の問題、ひいては地域社会の問題として認識しなかつたのである。というよりは、私達が日頃関わっている人達は、本来家庭などの地域社会で生活することが本当であり、そうする事ができるが本当に援助している。私達の力不足から彼等が獲得しているものもまだまだ少ないが、地域社会にも受け入れる力が少ない為、施設生活を余儀なくされている。私達の目標を実現する為には、地域福祉力の向上にも援助していかねばならない、からである。だが結局、そこまで考えずに中途半端な気持ちでの取組又は、終極な確信であつ



10月31日午前8時30分、バスは落穂寮を出発しました。行き先は白浜方面。どんな2日間になるのかと、期待に胸をふくらませていました。

高速道路の、代わり映えのない景色が続き、少し外を見るにも飽き飽きした頃、目の前に大きな遊園地(エキスポランド)が広がっていました。次に待っていたのが開港したばかりの関西新空港。天気も良く、淡路島まで望むことができました。

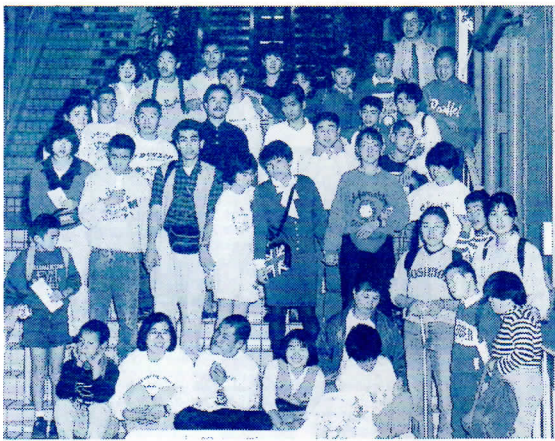
和歌山に入れば、山の斜面一面のみかん畑が、そして最後に大きな海が見えました。ここま

で来ると、ようやく白浜へ来た、という実感が湧き、早く着かないかとそわそわする人もいたようです。

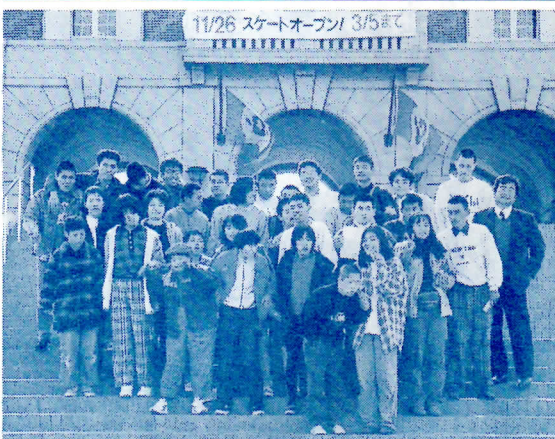
11月1日、アドベンチャーワールドへと出発しました。開園早々「ケニア号」に乗り込み、見慣れぬ動物を見た後は、班列に行動しました。思い思いに楽しく過ごしました。イルカショーを見る人のりものに乗って遊ぶ人、おみや

が買う人……。

午後、少し疲れた体とたくさんのおみやげを乗せたバスは、再び落穂寮に向かって出発しました。どれくらい時間がたったのか、気が付けば外はまっ暗になっていました。



バスとカニづくし



今年の年長旅行は、城崎温泉を中心としたとても有意義な2日間でした。一日目はフルーツフラワーパーク。中世のヨーロッパのイメージどおり広々としていて、とてもきれいでした。昼食はおいしいおにぎり、おいしいバーベキューをお腹いっぱい

いきました。城崎温泉でみんなで浴衣を着ての温泉めぐり。たくさん入ることはできませんでしたが、体がよく温まり、とてもきもちよかったです。食事も2日間カニ、カニのカニづくし。少し食べにくかったけれど、一人一パイ

ずつ食べることができ、満足感でいっぱいになりました。二日目は城崎マリノワールド。特に自然水族館シーズーは圧倒されるほどの迫力を体感しました。なかでもセイウチは、かわいくとても愛嬌があり、なんととっても行動、表現力には大変驚かされました。

他にも、イルカショーやアシカショー、龍宮の舞などのイベントもあり、たくさん楽しむことができました。ただ、ポータブルの龍宮城への旅がちょうど期間が終わってしまったために、海底世界を探検することができなかつたのがとても残念で心残りでした。笑いあり、感動ありのすばらしい思い出になりました。(川端)

い食べ、そのあとチューチューとレインに乗って園外をゆっくり一周しながら美しい景色を満喫したり、できたての手作りパンを食べたり、冷たくて美味しいアイスクリームを食べたりして、ルネサンス城の雰囲気味わっていると、あっという間に時間が過ぎてしま

あつという間に時間が過ぎてしま

杉山だより

杉山寮建設の進捗状況

杉山寮建設事務局 橋本浩明

昨年九月に着工となり、荒放題だったところが造成され建物の基礎となるコンクリートが入った時点でもいよいよ建物が建つと、十一月中旬頃よりの鉄骨の柱で骨組みが出来はじめると(わずか一日で素人目には出来たと見えた)

益々この感が強くなりました。この間には請負業者への前金払いのことや補助金のごとで県主管課へ何度となく行き話しを詰めて来ました。

一方杉山の家が発足した頃より懸案事項であった町簡易水道施設の改修については地元区の後押しもあり、今津町の六年度事業として実施される運びとなりました。鉄骨骨組み、一・二階の土入れ、配管、配線から土間打ち作業の様子を毎日見ていると建物が出来てゆく過程がわかるだけでなく、各持場の職人さんたちの仕事ぶりも

感じられるようになり、さすが専門家と感心させられる事も多くで日覗きに行った時には、8ミリビデオで記録を撮ってビデオプリンターでプリントアウト整理していただきます。十二月に理事長と上京しての記録したファイルを厚生省、医療事業団へ届けたところ大変好評を得ました。このことは直接関係ないと思いますが、借入金の一部を予定より一ヶ月早く支払うこともできました。

現在までの事柄だけで今後のことまで推し量ることは難しいとは

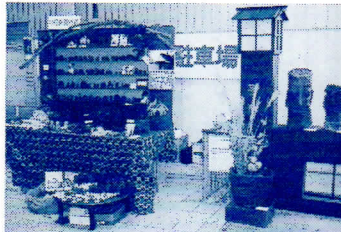
思いますが、補助金・自己資金・寄付金等でどういった建物を建設しようとするとき、諸々の制度・法的なことを知ることはもちろん大事なことであります。大切にしなければならぬのは、人と人のつながりだと感じ得ました。杉山寮建設に充たつては各方面、各担当方々の制度上には無い気持ちをお願い、いまのところすこぶる順調に進んでいます。竣工までは無論のこと、開寮以後も人と人のつながりを大切に、みんなで杉山寮の生活がつけられ

ることを願っております。

最近のおちほの粘土

菅原龍弥

前寮長池谷正晴先生から伝統ある粘土作業を引き継いで三年が経とうとしている。その間、東京の展覧会はないし、近在で展覧会をするでもないし、最近どうなっているんやとお叱りの言葉をちようだいすることもある。細々とではあるが杉の子班を中心とした寮生で続けているし、あふれる希望の芸術展などにも出品している。十月には長浜市街に開催された芸術版楽市楽座に出店した。比較的小さな物を持って行き即売した。「飛ぶように売れた」というわけには全くいかないのだが、多くの人が足を止めて関心を持ってくれ



る。それだけでうれしい。一生懸命焼いた坂田君の大きな壺はあまり手放したくはなかったのだが、売れてしまった。去年一個も売れなかった藍原

通宏君の粘土を喜んで買ってくれる人もいた。昨年も出店したので、それ以来のファンもいる。彼らは神戸からやってきている人たちでアクセサリーを売っている。松井大輔君の人形などを今年も買ってくれた。自分たちの店に飾ってお

いたら、譲ってほしいという人が引きも切らないそうだ。この日松井君は胃の手術で緊急入院。彼らはとても心配してくれた(兵庫南部地震が起き、三宮に住んでいた彼らの安否が心配である)。店はテーブル一つと衝立で作る。この日、店作りコンテストで末席であるが「中日新聞社賞」を頂き、手伝ってくれた箕口さん、南さん共々喜んだ。賞品は吟醸酒二本。十一月には

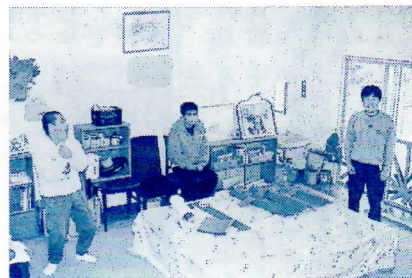


東京池袋の西武百貨店で開かれた「第9回障害者総合美術展」の全国秀作展「異才・美の世界」に招待され出展。作品を数点送るだけで展覧会には足を運ばなかつたのだが、戻ってきた報告書と写真には高円宮殿下も作品をご覧頂いたとある。松井君、宮崎君、森川君、青山さんらの作品が晴れがましい舞台に立った。

粘土は彼らの表現である。私たちはそこに私たちに無いもの、忘れてきてしまったものを見る。今年平成七年には三年ぶりの「土と色展」が開催されます。親御さんのみならず、一人でも多くの人に彼らの世界にふれて頂きたいと思

昨年四月より新たなメンバーでスタートしたつくし班。次の日課班へ移られるようにする為の作業前学習班として位置付け、来年度へのステップを踏む場となっています。昨春、高校を卒業した二名と昨年度に引き続きつくし班の一名。この

素敵な仲間



三名が仲間です。それぞれ個性豊かで興味・関心事も異なり能力的な差もありますが、同じ時間を過ごしてきた為、仲間意識も芽生えてきました。午前の歩行では、速い人がゆっくりペースの人を気遣

間です。未熟な職員も含め、ゆっくり進んでいこうと思っ

御支援・御協力ありがとうございます!!
この一年間、多くの人・団体から、多額の寄附・寄贈をいただきありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。来年度も引き続き、皆様の御支援・御協力の程、よろしくお願いいたします。

お見舞申し上げます。

去る一月十七日に、兵庫県南部地震がありました。被災された皆様に、心よりお見舞申し上げます。

杉山での生活が、昨年五月から始まり八か月が過ぎました。寮生も、少しずつですが杉山の生活に馴れて、友人・職員との間でコミュニケーションをとれるようになってきています。

十一月からは、椎茸のホダ木を入れ、年始めにあたって出荷しています。椎茸の方も、先月よりホーム生・寮生共に少しずつですが作業に取り組んでいます。

△さて、はや一年が過ぎようとしています。前号では、『彼等の未来を見つめて、日々、すごしていきたい』と書いたのに、気がつけばもう二月になりました。結局、何もできなかった一年だったような気がします。(落穂寮のみなさん。ゴメンナサイ。)

ですが、「つくし班といえはコレだ!」と、売り込める活動は未だ模索の状態です、彼等には申し訳なく思っています。

杉山では、ホーム生・寮生共に生活しているため、日課として行なっている作業も同様に一緒に行なっています。

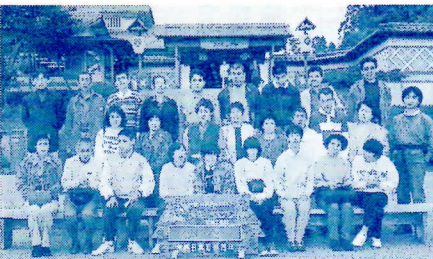
今年、杉山寮開寮までに、粘土結び織りといった作業も行なっています。

今年で落穂寮も四十五歳。これまでの四十五年間、落穂寮が培ってきた心と心の結びつきを大切に、職員が自己研鑽に努め、『成人化』を図れる資質を養っていきましょう……と思います。次回、第二十二号を楽しみに!

ゴミにこだわりを持ち、一時期日課活動も疎かになった事のある土佐君。ちよっとした隙を見付けるとB棟へまっしぐらの矢部君。いつもマイペースだけど時折、とんでもない事をしてかす小沢君。三人三様ですが、とても素敵な仲間

午前の作業としては、歩行を中心として行なっています。外出する事によって、気分転換、ストレスの発散を目的として行

杉山の生活



今年、杉山寮開寮までに、粘土結び織りといった作業も行なっています。

今年で落穂寮も四十五歳。これまでの四十五年間、落穂寮が培ってきた心と心の結びつきを大切に、職員が自己研鑽に努め、『成人化』を図れる資質を養っていきましょう……と思います。次回、第二十二号を楽しみに!

(木言)